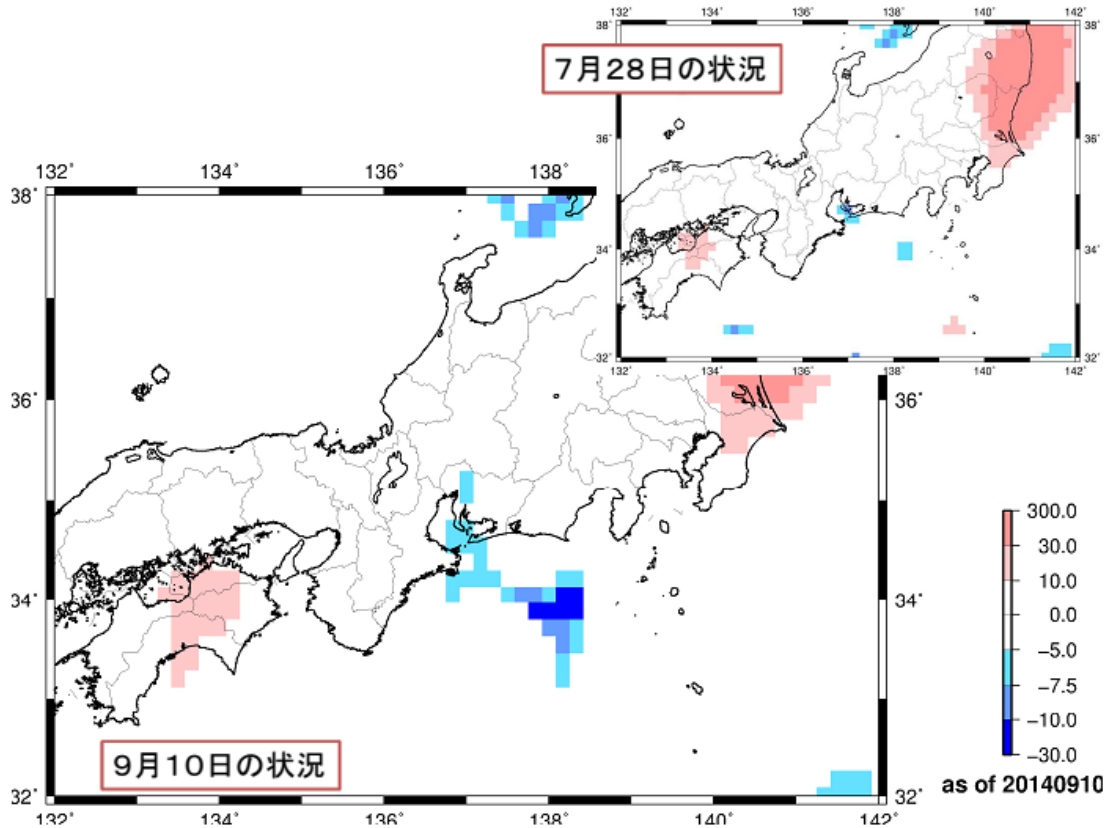


首都圏西部・中部・近畿地方の状況

3 1 1 以降、非常に激しい地震活動が続いておりますが、少しずつ落ち着きを取り戻しているようです。ただし大地震の発生の危険が去った訳ではなく、地下天気図においても大きな、急激な変化が少なくなってきたという意味です。

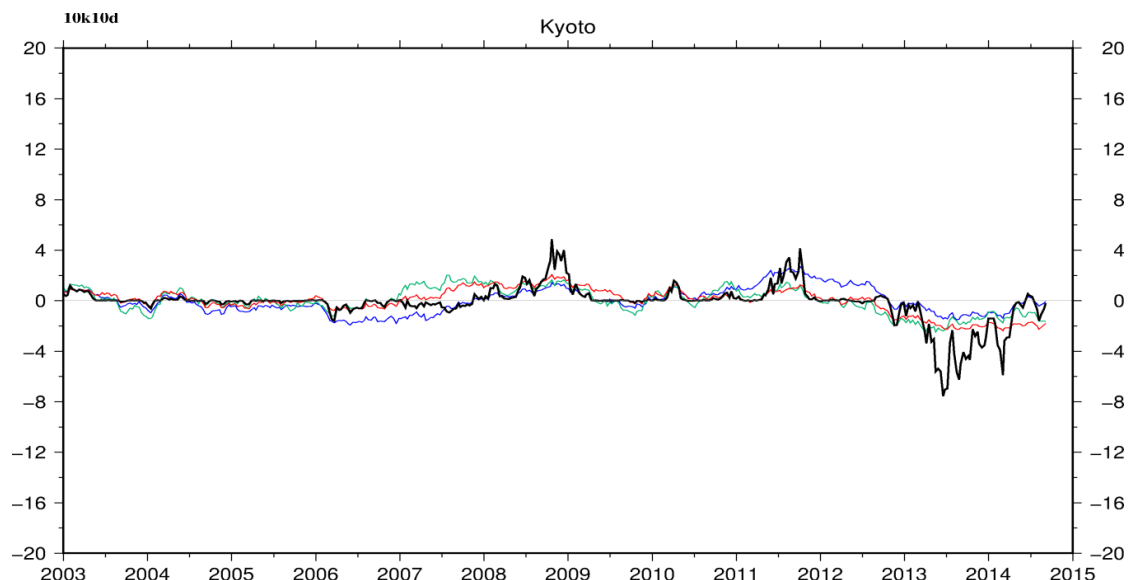


9月10日の時点で顕著な静穏化は観測されていません。御前崎沖の地震活動静穏化領域（青い領域）ですが、これも形が悪く、面積も小さいため、現時点では重要とは考えていません。今後の推移を見守っていきたいと思います。

地下天気図では、このようにある時点での（今回は9月10日）空間的な異常の広がりを見ていますが、実はもっと重要なのはその異常が時間的にどう変化してきたかという時間変化のグラフなのです（時系列変化と言います）。DuMAでは今後、このような時間変化を自動で計算しウェブで公開できるようにするのが将来の大きな目標の一つです。今回のニュースレターでは3地点（これまでも継続的に示してきた京都、そして初めてお示しする静岡、横浜の時系列変化をお見せしたいと思います。

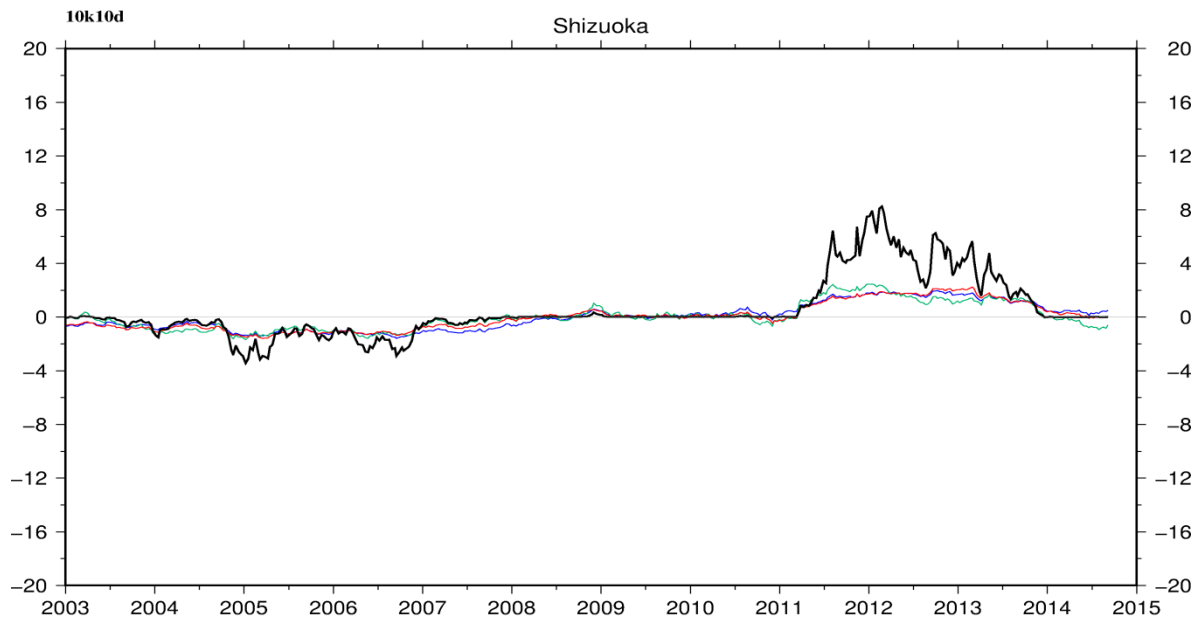
京都市の時間変化

静穏化が終了した状態で、まだマグニチュード5クラスの地震が今後数ヶ月以内に京都府およびその周辺で発生する可能性が残っています。



静岡市の時間変化

2011年3月以降の活性化は、2011年3月15日に発生した富士山南側で発生したM=6.5の地震(311に誘発された地震)の影響です。かなり定常的な状態に近づきつつあります。



横浜市の時間変化

2012年後半からの地震活動の活性化は特にどれか一つの地震が影響しているというのではなく、全体的に神奈川県およびその周辺で地震活動が活発であったという事を示しています。現在はかなり静岡同様落ち着いてきているようです。

